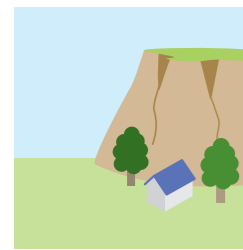


3-4 とるべき行動〈土砂災害〉 Course of Action〈Landslide〉

向日市では、大雨・台風や地震による土砂災害のおそれがあります。近年の土砂災害の状況を踏まえ、国では平成26年11月に「土砂災害防止法」を改正し、国民の生命および身体を守るため、土砂災害のおそれのある区域を明らかにした上で、警戒避難体制の整備などの対策を推進しています。

近年の気象状況を踏まえ、土砂災害についての理解を深め、発生に備えてスムーズな避難を行うことが防災・減災につながります。



急傾斜地

がけ崩れに注意が必要です。がけ崩れは、豪雨や地震によって突然発生します。



下流部

山間部の集中豪雨に注意が必要です。豪雨によって山崩れが起きると、土石流の危険があります。

令和2年7月豪雨

西日本から東日本に停滞する梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発となり、7月初めから全国各地で長期間の大雨となり、鹿児島県、熊本県、長崎県、佐賀県、福岡県、岐阜県、長野県に大雨特別警報が発表されました。

土砂災害発生件数は、2府35県で961件に及び、京都府下は京都縦貫自動車道(沓掛インターチェンジ)料金所の近くで斜面崩壊が発生するなど、甚大な被害となりました。

死者	84名	全壊	1,621棟
行方不明者	2名	半壊	4,504棟
負傷者	77名	一部損壊	3,503棟
		住宅被害	

出典：内閣府 令和3年1月7日 14:00現在



主な前兆現象

土砂災害が起こる多くの場合、事前に危険と思われる変化が見られます。よく注意してください。

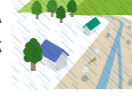
川がにごった

川がにごり、木の枝などが混ざりはじめた



水位が下がった

雨が降り続けているのに川の水位が下がった



亀裂が走った

山の木が傾いたり、斜面に亀裂が走った



石が落ちてきた

山の斜面から石が転がり落ちてきた



湧き水が止まった

今まで枯れたことのない湧き水が止まった



湧き水が増えた

湧き水の量が急に増えた



井戸水がにごった

普段澄んでいる沢や井戸の水がにごってきた



地鳴りがする

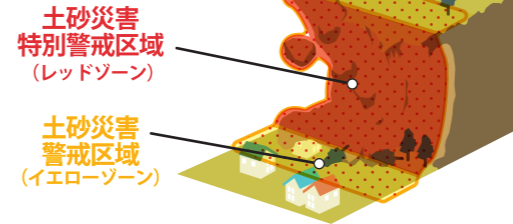
地鳴りの音が聞こえてきた



土石流 発生のおそれや土砂の働き方から、大きく「がけ崩れ」「土石流」があります。

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)

傾斜した土地が崩壊する自然現象。突然崩れ落ちるため、ひとたび人家を襲うと逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなっています。



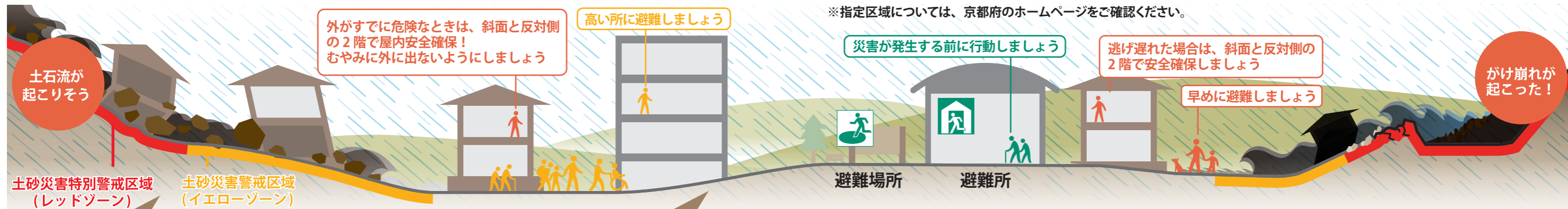
土石流

山肌が崩落して生じる土石などや、渓流の土石などが一体となって流下する自然現象。その流れの速さは、時速20km~40kmで、一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



ハザードマップで自分の居場所の危険を知ろう

P.33 ~ P.48



**雨 / 土砂災害警戒情報に注意**

土砂災害の多くは雨から起こります。1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら注意が必要です。土砂災害警戒情報は、土砂災害の危険性が高まった際、京都府と京都地方気象台が発表する避難に有効な情報です。早めの避難を行いましょう。

20ミリの警戒情報

**逃げ方は避難が基本です**

**安全な場所まで避難**  
レッド・イエローゾーンは崩れる前に早期の避難を！※土砂災害警戒情報は避難の判断合図

**直角に逃げましょう！**  
土石流はスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向とは、直角に逃げましょう。

**屋内安全確保**

**土砂災害がすでにおこってしまい、逃げ後れた場合は建物内の高い場所へ避難**

建物の2階以上で斜面とは反対側の部屋など、屋内の少しでも安全な場所へ避難しましょう。特に土石流が想定される場所では、危険なエリアから離れるか、近くの丈夫な建物の上階に避難しましょう。大雨が上がっても油断せず注意が必要です。

**ため池の決壊による、土砂災害の危険性**

短時間に激しく降る大雨(ゲリラ豪雨)によりため池の水位が上がったり、上流部での土砂災害による土砂の流入により、ため池が決壊する可能性もあります。